

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

今年に入りマスコミを賑わせていたトランプ米大統領も、2月13日にクアラルンプール国際空港で起きた北朝鮮の金正男氏殺害事件、3月に入ってから北朝鮮によるミサイル発射、森友学園騒動、韓国の朴槿恵大統領の罷免といった話題に関心が移ったため、取り上げられる機会が少なくなったように思われます。医療界では来年4月の診療報酬・介護報酬同時改定に向けての議論が活発になってきました。今度こそ「サクラ咲く」「春爛漫」となることを祈りましょう。

2月20日（月）、岡山市で**医療事故調査制度「トップセミナー」**が開催されました。これは日本医療安全調査機構の委託を受けて日医が開催したセミナーで、医療事故報告における判断についてグループで検討する演習や、医療事故調査に関する要点や医療機関管理者の役割等についての講演があったようです。県医師会からは林 弘人 専務理事と中村 洋 理事が参加しました。

2月23日（木）に県庁で開催された**山口県医療勤務環境改善支援センター運営協議会**に沖中芳彦 常任理事が出席しました。このセンターは27年9月1日に、県健康福祉部医療政策課内に設置されましたが、現在までの相談件数は14件、支援を実施している医療機関は3施設（診療所1、病院2）にとどまっています。今後さらに周知、啓発を行っていくとのことでした。

山口県医師会 IT フェアを2月25日（土）に開催しました。日医総研が管理運営していたORCAプロジェクトは、27年11月から日医と地域経済活性化支援機構が共同出資して設立され

た日本医師会 ORCA 管理機構（株）に移管されました。今回の IT フェアは、その新会社の上野智明 代表取締役社長による「ORCA プロジェクトの現状と今後について」、日医総研の矢野一博 主任研究員による「医師資格証、医療等 ID について」の2講演が行われました。講演の中で、日医の医師資格証を用いて電子紹介状に電子署名ができるソフト、電子文書をセキュアで安全な通信環境でやりとりできる文書交換システム（MED Post）を新たに構築したとの話がありました。このシステムを用いると、地域医療ネットワークがない市・町でも検査・画像情報提供加算や電子的診療情報評価料が算定できることになります。

翌26日（日）には**第143回山口県医師会生涯研修セミナー及び平成28年度山口県医師会勤務医部会総会・シンポジウム**が開催されました。勤務医部会のシンポジウムのテーマは「医療事故調査制度－医療安全のために－」で、林 専務理事の基調講演の後、岩国医療センター、山口県立総合医療センター、山口労災病院、下関医療センターから医療安全への取り組み、医療事故調査制度への対応についての発表が行われました。死亡事案について、事前に患者や家族に、死亡あるいは死産が予想されていることを説明しているかどうか、そしてそのことがカルテに記載されているかどうかをチェックすることは大変な時間と労力を要します。今回発表を行ったすべての病院には、専任のリスクマネージャーはいるものの、人員的には不足しているように思われます。このあたりも診療報酬でしっかりと手当てしていただく必要があると思われます。

3 月 1 日（水）に開催された**都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会**において、かかりつけ医向け「認知症高齢者の運転免許更新に関する診断書作成の手引き」が公表されました。日医の HP (<http://www.med.or.jp/doctor/report/004984.html>) にも掲載されましたので、ぜひご覧いただきたいと思います。手引きによると、少なくとも 1 年以上定期的に診察を行っており、患者の心身の状態、生活状況を、可能であれば家族からの情報も含め、よく把握できている患者（かかりつけの患者）から、免許更新の際に診断書を求められた場合には、これまでの診療を踏まえて対応することとなっています。その場合、画像検査は必須ではありませんが、認知機能検査（HDS-R 又は MMSE）は必ず実施しなければならないとのこと。認知機能検査が 20 点以下であれば、認知症の可能性が高いと考えられ、患者には診断書の提出によって、公安委員会の審査で免許証の更新が認められない可能性が高いことを説明する必要があります。レビー小体型認知症や前頭側頭型認知症等では、検査得点が高くても認知症として診断すべきケースがあるので、人格変化、行動障害がみられるケースや、躁うつや感情障害、幻覚妄想症状がみられるケース、意識レベルの変動ないし一過性の意識障害がみられるケース等は、専門医療機関の診断が望ましいとされています。本会ではこれまで、診断書作成には画像検査が必須と考え、手挙げ方式で対応医療機関の募集を行ってききましたが、見直しが必要ということで、河村会長と担当役員で検討を行うことになっています。

3 月 2 日（木）に開催された**郡市医師会医事紛争・診療情報担当理事協議会**では、林 専務理事が、医事案件調査専門委員会で協議された中から選んだ事案について、委員会で協議された内容と、その事案から学ぶことについての説明を行いました。現在係争中の事案もありますので、取り扱いには注意していただきたいと思いますが、担当理事の先生方には、ぜひ郡市医師会の会員の先生方にも、そのエッセンスをお伝えしていただければと思います。

3 月 5 日（日）は、午前中に**保育サポーター研修会**、午後に**男女共同参画部会総会**が開催されました。総会では武蔵大学社会学部社会学科の田中 俊之 助教の特別講演「男性学の視点から 男性の仕事中心の生き方を見直す」と熊本大学医学部附属病院地域医療支援センターの後藤理英子 特任助教の特別企画「熊本地震による学びとこれから」の 2 つの講演が行われました。

3 月 9 日（木）の平成 28 年度山口県生活習慣病検診等管理指導協議会「乳がん部会」には林 専務理事と加藤智栄 常任理事が、3 月 10 日（金）の同「子宮がん部会」には藤野俊夫 監事が、また 3 月 14 日（火）の同「肺がん部会」には中村 理事と私が出席しました。山口県のがん検診受診率は年々緩やかな上昇傾向にありますが、全国平均に比べるとまだまだ低い状況にあります。市町の積極的な個別勧奨が求められます。

3 月 12 日（日）に日本医師会館で**都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会（仮称）」連絡協議会並びに学術大会**が開催され、河村会長と香田和宏 理事、天野秀雄 警察医部会長らが出席しています。部会設置状況のアンケート調査結果が公表されましたが、部会を設置しているのは 20 都県、設置準備中 2 県、未定 4 県とのこと。アンケートの回答をしなかった道府県はおそらく設置予定がないものと思われ、まだ半数近くを占めています。

学生時代にルドルフ・ケンペ指揮のブラームスの交響曲第 1 番（ベルリン・フィルハーモニー、1959 年録音）を聴き感動しました。その当時、このドイツ生まれの指揮者については全く知識がなかったのですが、この LP がきっかけでその名前が頭に刻まれていました。1972 年、ミュンヘン・オリンピックでのテロ事件による犠牲者を悼む集会在会期中にスタジアムで行われ、ケンペが指揮するベートーヴェンの交響曲第 3 番「英雄」第 2 楽章（葬送行進曲）が演奏されました。通常よりかなり遅いテンポで、悲しみに浸っている感じがにじみ出るような演奏でした。ただ、この

前後に録音された交響曲全集（ミュンヘン・フィル）は 1975 年の日本レコード・アカデミー賞を受賞し、非常に高い評価を得ていますが、私にはしっくりきませんでした。ケンペは死の直前に各社から相次いで新録音レコードが発売されてブーム状態となり、その頂点で急死したこともあって、死後 1 年ほどは過熱気味ともいえる人気ぶりでした。しかし、その後次第にブームの反動で忘れ去られているように思われます。しかし私にとって、ドレスデン・シュターツカペレを指揮し

て完成させたりヒヤルト・シュトラウスの管弦楽作品全集は宝物（LP と CD の両方を持っています）の一つですし、以前はあまり良いとは思わなかったベートーヴェンの交響曲全集も聞き直してみると、華麗さや派手さはありませんが、まさにこれがドイツ的と言っていいベートーヴェンを聴かせてくれているように思います。

山口県ドクターバンク

最新情報は当会 HP にて

問い合わせ先：山口県医師会医師等無料職業紹介所

〒 753-0814 山口市吉敷下東 3-1-1

山口県医師会内ドクターバンク事務局

TEL：083-922-2510 FAX：083-922-2527

E-mail：info@yamaguchi.med.or.jp

死体検案数掲載について

山口県警察管内発生 of 死体検案数

	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Feb-17	20	163	0	0	13	0	20	216

死体検案数と死亡種別（平成 29 年 2 月分）

